

◆◆特集（鎌倉三日会提言1）◆◆

鎌倉三日会は平成28年7月12日、鎌倉再発見構想についての提言書を提出しました。提言本文・関係部長コメント・松尾市長コメントを特集として掲載します。

提言本文

鎌倉市長 松尾 崇様

2016年7月12日

会長 新村 正純

鎌倉再発見構想についての提言 (公民協働推進による中世の鎌倉再発見構想)

(前提認識)

- ◇ わが国の中世は、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、「権威」（天皇）と「権力」（幕府）とを分けた政治体制から始まった。
- ◇ 鎌倉の埋蔵文化財は、その中世を物語る超一級の物的資産である。往時、武家の都であったことに加え、地下水位が高いことから、そこは良好な状態で維持されている。まさに地下に鎌倉時代の当市が眠っている。
- ◇ 中世期の鎌倉は当市の原点である。発掘から判明した成果や出土品などを当市のアイデンティティ確認・醸成や文化活動・生活の場づくりに活かすことが望まれる。

(提言)

1. 発掘から判明した成果をもっと積極的に市民に知らせたい。その際、幕府措定地、八幡宮周辺、北鎌倉、永福寺跡周辺、和賀江島など地域に即した成果公表が望まれる。
2. この成果から浮かび上がる地域の特徴を明らかにし、それを表象するという観点から出土品の選択基準を設けた、戦略的仕分けによって速やかに対応されたい。
(選択基準づくりと仕分けは専門家の仕事)
3. 仕分けられた出土品以降の工程は、専門家の指導の下に経験を有する学生や市民に

よる作業チームを編成し、効率的効果的に実施することを勧める。

(行政と市民の協働の仕事)

4. 整理され修復された出土品、それらの解説文や模型・地図・図表などを鑑賞する場を設けるべきである。その場は、コア博物館（全体像を知り、情報を得るため）と各地の実物現場（発見の小道と現物施設）で構成するイメージ。このような仕組みは「エコミュージアム」と呼ばれている。コア博物館は中世鎌倉を象徴する鶴岡八幡宮の近傍が望まれ、歴史文化交流センター、旧鎌倉近代美術館、その他が候補となろう。
5. コア博物館では常時調査研究を行い、新たな知見を提供し、分かり易く知らしめる義務がある。学芸員や行政が中心だが、ボランティア・ガイドや体験指導など市民ボランティアとの協働も不可欠である。
6. 各地の実物現場の環境整備、例えば安全に歩く・道路標識を設ける・歴史的建造物の維持などのインフラ整備は行政の仕事。そこでの説明や各種活動は、専門家の指導の上で市民が実行したい。前者については、国から認可された「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」をベースに「エコミュージアム」概念に拡張する方法を勧めたい。後者については、既に活発に行われている市民の文化活動と連動する方向を考えたい。
7. 当市にとって中世期は原点であると同時に、未活用のフロンティアである。ここを良い方向で開拓すれば、一段高い文化都市・鎌倉が実現すると確信する。

※17万人規模の都市だけで上記のことを達成するのは至難の業であることは理解している。

まず、公・民がともに智慧を絞り汗を流すことから始めようではないか。

その成果を確かめつつ、未だ我が国に存在しない中世歴史博物館への進展を大学や他の博物館の協力連携を得てすすめたい。

また、埋蔵文化財の活用に課題を抱える都市（古都保存法の適用都市や歴まち都市）と共同して、その充実を図る制度の創設へと進むロードマップも描きたい。

部長コメント

(文化財部長)

今回、「エコミュージアム」について具体的な提言を頂いた。現在市では、「鎌倉歴史文化交流センター」計画を進めている。来年度以降はセンター前の空き地に博物館の建設を想定している。昨年の議会で「エコミュージアム」の考え方は取り上げられ、市として博物館構想の中で考えたいたした。埋蔵文化財にエコミュージアムを適用するという発想は大変参考になる。

鎌倉の実情を考えると、将に公・民一体で取り組むことが重要だ。コア博物館では、ボランティア・ガイドとの連携や体験学習などの一環に取り込むなども考えられる。

出土品については、現在野村総研跡地に三万三〇〇〇個の箱を保管している。この箱の物を整理するには、今のやり方だと三〇年は掛かる。現状では二チームしか編成出来ないが、これを三チームに増やすことにしている。

一九九七年の文化庁研究会の成果を踏まえて進め、同時にそのための必要資金を得て作業を実施しているところである。鎌倉三日会の提言は発想として面白いと思っている。

「エコミュージアム」についてはよく理解した。これからはこれを如何に実現するかだと思っている。

(企画部長)

今回の「提言」はよい話だと思う。まちなみ行政とエコミュージアムが結びつくとよいと思う。郷土愛に触れることは、若者を引き付ける上でもよいことである。

市長コメント

(松尾市長)

観光客の多くは、鎌倉の八幡さまや大仏のみを見て帰えるが、我々には多くの遺跡や遺物があり、これらをも見て欲しいと思う。今後、観光行政や文化行政にもっと力を入れて鎌倉の魅力を深めて行きたい。今回、この提言を頂いた機に、一步一步と進めて行きたいし、共同の場をも作って行きたい。